



1 競技をはじめる前に

このかるたは、皆さんがふるさと鶴ヶ島の自然や歴史・伝統文化を学び、郷土を愛し、これからの鶴ヶ島をつくっていく「小さなまちづくり人」として活躍してほしいという願いをこめてつくられたものです。

ルールを守り、学校の仲間や家族、地域の皆さんといっしょに楽しく遊んでください。

◎ このかるたは、市内の小・中学生の皆さんから読み札・絵札を募集して作成したものです。札の裏面に印刷されている学校・学年は、作品の応募があった当時のものになっています。

2 競技の仕方

(1) 競技の種類

- ・団体競技（3人が1組になり2組で行います。）
- ・個人競技（1人对1人で行います。）

(2) 競技に使う札

「未来を拓く つるがしま郷土かるた」読み札、取り札とも46枚です。

(3) 競技に必要な係

- ・進行係 1～2人
競技を進める人
人数が少ない場合は、読み手がかねられます。
- ・読み手 2～3人（各試合に1～2人）
読み札を読む人
- ・審判員
競技を公平に審判する人

(4) 競技の準備

- ・団体競技での並び方
3人ずつ向かい合って一列に並び、1.5メートル以内に3人が適当な間をおいて並びます。
- ・持ち札（取り札）
進行係の合図でまん中の人ジャンケンをし、勝った人が

札をよく切って半分（23枚）ずつに分けて前に置きます。
負けた人が先にどちらかを取り、勝った人が後から取ります。

・札の並べ方（右下図参照）

団体の場合は2段、個人の場合は3段にそれぞれ平均に並べます。両方の陣の間は3センチはなし、各段の間及び左右の間は1センチほどあけ、札と選手のひざがしらとの間は20センチ以上あけます。

・記憶時間

かるたを並べはじめてから3～5分間に取り札を記憶します。

(5) 競技

- ・記憶時間が終わると競技に入ります。
- ・「読み手」が「から札・㊤」を2回読みます。
これが予告になり、3回目に読む札から取り始めます。
(札はすべて2回ずつ読みます。)
- ・取り札が最後の2枚になったら、横に30センチはなして並べ、各組の代表1人がこの札を取り合い、1枚を取った人が残りの1枚も取れます。

(6) 採点

- ・得点の計算は、1枚1点とします。
- ・団体競技の場合は、次のような「やく札」があります。「やく札」は、そろわなければ1点として計算します。

たからふだ 宝札	お	さ	ら
シンボル札	き	し	す

の3枚で10点
- ・同点の場合は、「から札・㊤」のある方を勝ちとします。

3 競技上の注意

・札を取る時

両手を使ったり、力ずくで札をひっぱりあってはけません。札が読まれるまでは手はひざの上に置き、札の上にかぶらないようにし、札が読まれるまでは、線からひざ・ひじ・顔などが出てはいけません。

札を押さえても、はじいても、押しても引いてもよいが、

故意にとばしてはいけません。札に指が早く触れた方が勝ちです。

・お手つき

読まれた札ではない札に手を触れたら、「お手つき」として、取った札の中から1枚を相手に渡します。味方の3人がそれぞれ同時にお手つきをした場合も、相手に渡す札は1枚です。

・あいこ

両方の手が重なったら、下の手の人が取ります。同時の時は、その札のある陣の人にゆずります。ただし、その札が「やく札」の時は、「審判あずかり」とします。

・競技の始めと終わり

お互いに「礼」をしましょう。

・その他

相手に不満があっても、直接言い争いをせず、審判を通して意見を述べましょう。

4 札の並べ方

